

三河山間地域活性化基盤整備計画

計画概要

◆計画期間
平成21年度～平成25年度



◆計画の目標

各地域間の連携・交流強化による観光拠点施設の魅力の向上、都市と山村との交流促進により三河山間地域を訪れる観光客の増加を図る。

- 高規格幹線道路インターチェンジ、近隣都市圏から観光拠点へのアクセス性の向上と計画区域内の観光拠点間の周遊性を高める幹線道路の整備
- 都市住民が三河山間地域の魅力を再発見し、観光のみならず山間居住までのきっかけ作りを可能とする情報の発信

◆計画の成果目標(定量的指標)

指標①: 計画区域内の観光客入込数を9,017千人から10,000千人へ増加する

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A (基幹事業名)	3,368百万円	国道473号(桜形拡幅)を始め13箇所の道路整備を実施。他機関との事業調整等のため予定よりやや遅れて進捗。	69%
B 提案事業	20百万円	愛知県交流センター活動推進事業を実施。三河の里活性化事業を実施。	
C 効果促進事業	0百万円		
合計	3,388百万円		

※事業費は実績額

※進捗率(%)は各事業の計画に対する実施割合【事業費ベース】

◆事業の実施状況

計画の整備方針	事業区分	事業名	延長	事業実施状況	事業遅延の理由
<p>○高規格幹線道路インターチェンジ、近隣都市圏から観光拠点へのアクセス性の向上と計画区域内の観光拠点間の周遊性を高める幹線道路の整備</p> <p>○都市住民が三河山間地域の魅力を再発見し、観光のみならず山間居住までのきっかけ作りを可能とする情報の発信</p>	基幹事業	(国)473号岡崎額田BP	0.7	○	
		(国)473号桜形拡幅	0.8	◎	
		(国)151号新城BP	3.5	△	他機関との調整により優先区間を先行整備
		(国)420号豊邦拡幅	0.8	◎	
		(国)473号設楽BP	0.5	○	
		(主)足助下山線	0.5	◎	
		(主)鳳来東栄線	0.5	◎	
		(主)阿南東栄線	0.3	◎	
		(一)富岡大海線	0.5	○	
		(国)420号(新城市・設楽町)	1.8	◎	
		(一)茶臼山線	2.2	◎	
		(一)茶臼山高原設楽線	4.1	◎	
		(一)振草三河川合停車場線	0.5	◎	
	提案事業	愛知県交流センター活動推進事業	-	◎	
	三河の里活性化事業	-	◎		

◎:計画期間中に完成 ○:計画期間終了後に完成 △:計画期間終了後に一部完成 ×:事業を中止

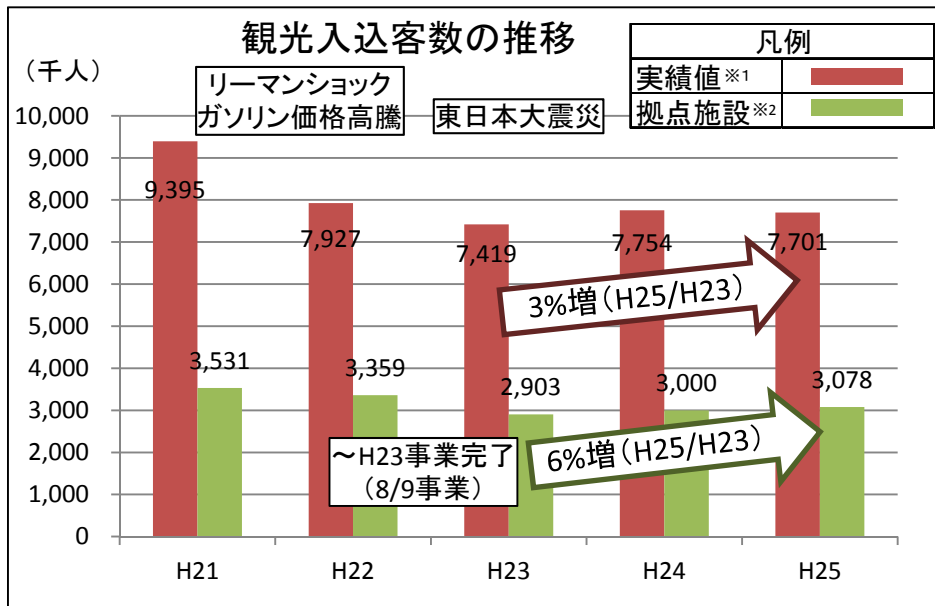
I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況（別紙1）

- ・(国)473号(桜形拡幅)の現道拡幅により、現道狭隘区間を解消し、アクセス性を向上したことで拠点観光客が安心しスムーズに拠点施設へアクセス出来るようになり、観光客数の増加に寄与した。
- ・(一)茶臼山高原設楽線及び(一)茶臼山線の舗装改修により、国道257号及び国道1号から拠点施設までの走行性を確保したことで観光客が安心して拠点施設へアクセス出来るようになり、観光客数の増加に寄与した。

II 定量的指標の達成状況

指標①(計画区域内の観光入込客数)

従前値 (H19)	9,017(千人)	目標値と実績値に差が出た要因	【社会的要因】 ・観光入込客数が目標値に達しなかったのは、平成20年のリーマンショックやガソリン価格の高騰、平成23年の東日本大震災の影響等による観光地への出控えが大きな要因だったと考えられる。 ・全国、県内の観光入込客数も同様に下がっており、当三河山間地域もその影響を受けたものと考えられる。
最終目標値 (H25)	10,000(千人)		【基幹事業の効果】 ・今回選定した拠点施設の観光入込客数については基幹事業の完了により、増加傾向にある(H25/H23:106%)。 ・個別の拠点施設においては、基幹事業の完了直後に大きく増加している施設もあり、基幹事業の完了が拠点施設の観光入込客数の増加に大きく寄与している。
最終実績値 (H25)	7,701(千人)		【拠点施設の広域的特定活動の効果】 ・茶臼山高原地区の茶臼山高原では、観光活性化対策事業及び過疎対策事業として、スキーマのシーズンオフを活用し「芝桜の丘」事業を実施している。平成21年度には稼働リフトを追加し(広域的特定活動)、期間中は前年(平成20年度)の3倍以上の来園客数となり、観光入込客数の増加に寄与した。



※1: 計画区域内の観光入込客数実績値
 ※2: 広域連携事業の拠点施設(別紙参考図面参照)における観光入込客数の実績値

○リーマンショックやガソリン価格高騰、東日本大震災の影響等による観光地への出控えにより、平成23年度までは減少傾向。
 ○計画期間内に完了した事業の内、平成23年度までにほぼ全ての事業が完了しており、平成24年度以降の増加に寄与している。
 ○平成24年度以降の増加率は、実績値より拠点施設の方が高く、事業完了による拠点施設への直接的な整備効果が高いことがわかる。

○基幹事業の完了前年度と完了翌年度で観光入込客数を比較してみると、増加している拠点施設が存在。

○茶臼山高原地区においては、拠点施設である茶臼山高原の稼働リフトの追加と一体となって(一)茶臼山高原線の整備を実施することで、他地域より大幅な増加に寄与している。



事業完了による観光入込客数の伸び(代表例)

基幹事業名	地区名	事業完了年度	前後の観光入込客数伸び
(国) 473号桜形拡幅	額田・作手地区	H22	123%
(一) 茶臼山高原設楽線	茶臼山高原地区	H21	191%
(主) 鳳来東栄線	鳳来寺地区	H22	102%

目標達成・未達成について

目標達成・未達成区分 **指標①: 判定【A】**

S: 計画推進による効果が確認され、評価値も目標値を上回った
 A: 計画推進による効果が確認されたが、評価値が目標値には達していない
 B: 計画推進による効果が確認できなかったが、評価値が目標値を上回った
 C: 計画推進による効果が確認できず、評価値も目標値には達していない

Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)

三河山間地域の移住人数が増加(愛知県振興部地域政策課山村振興室の移住実績調査より) 関連事業である愛知県交流居住センター活動推進事業において、交流居住を希望する都市側住民と受入側の三河山間地域とのマッチングを行っており、移住人数の増加に寄与した。

IV今後の活性化方策の検討

【基幹事業】

・引き続き他の整備計画に事業を位置付け、事業継続する。早期に完了し、三河山間地域の観光入込客数の増加に寄与する。

【提案事業】

・「あいち山村振興ビジョン」に基づき、引き続き愛知県交流居住センターを活用し、短期的な滞在から本格的な移住までの様々な田舎暮らしのスタイルを交流居住を活性化することにより、都市地域から三河山間地域への人の流れを創出していく。

【拠点施設及び広域的特定活動】

・平成24年度には三遠南信自動車道(鳳来峡IC～海部末いなさ北IC)、平成27年度には国道473号設楽バイパスや新東名高速道路愛知県区間が開通した。これにより三河山間地域のアクセス性が飛躍的に向上しており、県内のみならず高規格幹線道路を利用した遠方からの観光客を誘致する取り組みを更に実施していく。

◆フォローアップ

フォローアップの必要性

指標である観光入込客数は社会的な要因等があり目標に達しなかったが、個々の基幹事業の事業効果は確認された。計画期間内に完了しなかった事業については、他計画に位置付けて事業を実施し、他計画において事後評価を実施するためフォローアップの必要はない。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

策定主体にて評価を実施。なお、計画の各要素事業(基幹事業)については、愛知県公共事業評価実施要領に基づき評価を実施。

事後評価の実施時期

平成28年3月

公表の方法

WEBページ掲載
(<http://www.pref.aichi.jp/kensetsu-kikaku/kouiki/kouikiteki.html>)

【基幹事業】

■事業名

一般国道473号 桜形拡幅

■工事概要

一般国道473号は、愛知県蒲郡市を起点とし、静岡県榛原郡相良町に至る延長約143kmの幹線道路である。

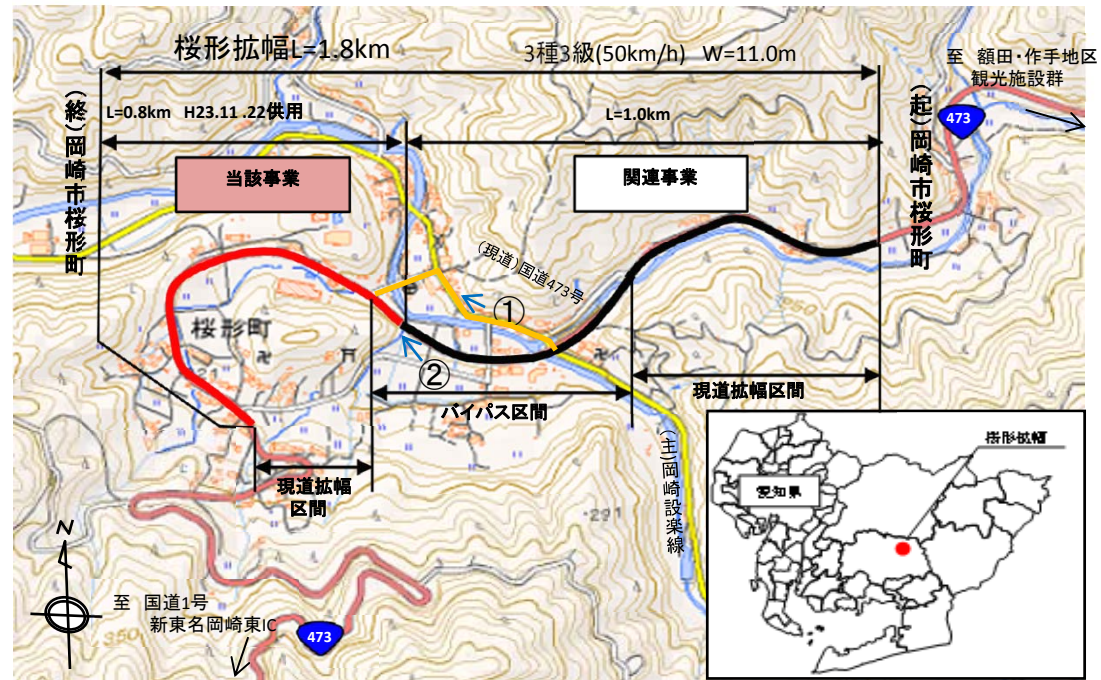
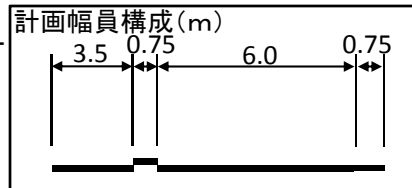
桜形拡幅は、幅員狭小、線形不良の隘路区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的とした現道拡幅及びバイパス事業である。

■事業箇所

愛知県岡崎市桜形町

■事業主体

愛知県

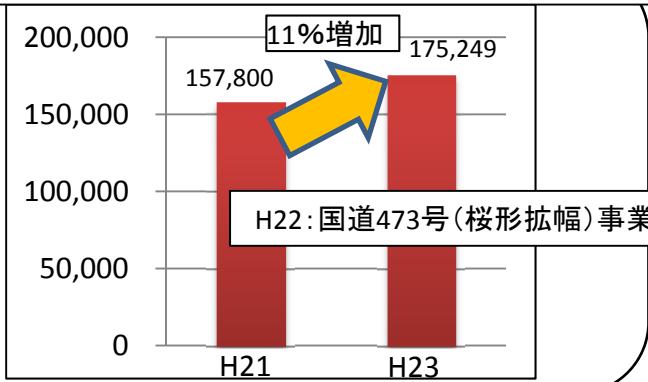


■事業効果

- ・車道の拡幅による急カーブや隘路区間の解消
- ・歩道整備による歩行者と車両の分離による観光施設への安全かつ円滑なアクセス性を確保



拠点施設(額田・作手地区)の観光入込客数の推移



■地元からの声

「車道が広くなり、急カーブが減ったことで安心して走れるようになった」

「歩行者が危ない目に遭うことがなくなった」



【提案促進事業】

- 事業名 愛知県交流居住センター活動推進事業
- 事業概要
 - ・交流居住を希望する都市側住民と受け入れ側の三河山間地域集落とのマッチング
 - ・交流イベントの開催、情報発信、交流から移住に向けて調査を実施
- 事業主体 愛知県交流居住センター
- 事業効果 交流住宅マッチング事業、交流住宅情報受発信事業、受入集落支援事業、交流居住フォーラム開催運営事業、ネットワーク事業を実施することで、三河山間地域への交流居住の促進を図った。

【都市住民と三河山間地域との交流イベントを実施】

さまざまな田舎暮らしを交流居住と位置づけ、交流居住を希望する都市側住民と受入側の三河山間地域集落とのマッチングを行い、三河山間地域への移住、滞在を促進させることを主目的に、春には素手で行う田植え体験、夏には完熟ブルーベリーの摘み取り体験などの交流イベントを開催した。

【交流イベントの実施状況】

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
三河山間地域	5集落	6集落	6集落	6集落
交流イベント回数	30回	27回	26回	27回
参加人数	1,141人	1,066人	969人	1,015人



【田植え体験（豊根村）】



【ブルーベリー摘み取り体験（豊根村）】

- 事業名 三河の山里活性化事業
- 事業概要 三河山間地域の有する自然、文化、伝統等の魅力を都市部の人々に広く紹介・体感してもらう事を目的とし、イベントを実施
- 事業主体 愛知県振興部、岡崎市、豊田市、新城市、設楽町、東栄町、豊根村
- 事業効果 ものづくり体験や特産品の販売、田舎暮らし相談などのイベントを行う「三河の山里体感プラザ事業」や山里の古い屋敷や地域を巡り、間伐体験、清流のホタル鑑賞ツアーを行う、「三河の山里ツーリズム事業」を実施し、人、もの、情報の交流を推進することにより、三河山間地域の活性化を図った。



【枝で鉛筆作り体験（ナゴヤドーム）】



【縁台作り体験（ナゴヤドーム）】

【イベント実施状況】

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
イベント期間	3日間	4日間	4日間	2日間
参加人数	31,200人	14,100人	12,800人	44,000人

【三河の山里体感プラザを実施】

三河山間地域の情報発信を行う場として、ナゴヤドームや中部国際空港などで特産品や観光をPRするイベントを開催し、枝を使用した鉛筆作り体験や木材を切って作る縁台作り体験を行った。